

03

生物多様性の島 ボルネオ島

世界で3番目に大きい島「ボルネオ島」は、200種類以上の哺乳類、260種類の両生類や爬虫類、600種類を超える鳥類、頻りに新種が見つかる昆虫や植物など、この地球で最も希少でユニークな生物多様性ホットスポットの一つです。特に、「ハート・オブ・ボルネオ」と呼ばれるボルネオ島の中心部の西側には今まだ未調査の深い熱帯の森が広がっています。2007年にWWF(世界自然保護基金)などの国際的な組織がこの地の保全に合意しています。

— オランウータン



学名	Pongo pygmaeus	分類	ほ乳類
分類詳細	霊長目ショウジョウ科	分布・環境	スマトラ島、ボルネオ島

オランウータン(マレー語で「森の人」)は、アジアで唯一の大型類人猿。東南アジアとインドシナに広く分布していましたが、現在ではスマトラ島、ボルネオ島の熱帯雨林に生息するのみで絶滅危惧種に指定されています。通常は、樹の上で生活をし、めったに地上に降りることはありません。長い腕を使って樹から樹へ移動します。夜には一人一人が毎日新しい巣を樹の上に作って眠ります。基本的に単独生活ですが、子育て中の母親は授乳期から4~5年を子どもとともに行動し常に子どもをそばに置き愛情をもって生育する姿が見られます。雑食で主にイチジク属の果実を好んで食べます。調査では食べ物を効率的に探すルートを持つため、季節や植物の位置を理解する能力や、他の動物の動きなどからも食べ物の位置を知る能力を持つと考えられます。寿命は50歳を超える例も報告されています。

— ボルネオゾウ

学名	Elephas maximus borneensis	分類	ほ乳類
分類詳細	長鼻目ゾウ科アジアゾウ属	分布・環境	ボルネオ島(インドネシア領北カリマンタン州、マレーシア領サバ州)

ボルネオゾウは世界最小の象です。顔も小さく角ばり、尾が長く、牙が直線的に伸びているのが特徴です。2003年のDNA調査から約1万8千年前からボルネオ島で独自に進化してきたことがわかりました。その生息域はボルネオ島北東部の一部に限られますが、森林伐採により生息地は狭まり、人間社会との軋轢が生じたことによる殺傷によって個体数が減る傾向にあります。



— テングザル



学名	Nasalis larvatus	分類	ほ乳類
分類詳細	霊長目オナガザル科テングザル属	分布・環境	ボルネオ島

天狗のような長い鼻を持つ風貌から名付けられたテングザルは丸いぼっこりしたおなかを出して樹の枝に群れで座る姿が印象的です。水辺の熱帯雨林やマングローブに生息して、1頭のオスと複数のメスからなる群れで生活しています。テングザルは高い樹の枝から川にダイブし、泳ぎ、浅い川であれば直立歩行をして渡ります。

— サイチョウ

学名	Buceros rhinoceros	分類	鳥類
分類詳細	サイチョウ目サイチョウ科	分布・環境	マレー半島、ボルネオ島、スマトラ島、ジャワ島

ボルネオ島キナバタンガン下流域には8種類のサイチョウが生息しています。サイチョウの名前の由来は頭部の角質の鶏冠がサイの角を連想させることにあります。全長90~160cm。森林に単独ペアで生息する。飛行する際の羽音は大きく、またラッパのような鳴き声をだします。主食は果実で他に昆虫や爬虫類、両生類も捕食します。大木の洞を巣として産卵、雛を育てる期間はその入り口を安全のために泥で塗り固めてふさぐ習慣があります。

